



旭自治会だより

令和5年4月1日 第60号 発行 旭自治会

TEL: 0771-22-5533

HPアドレス: kameoka-asahi.com (QRコード)



令和5年度始めました

春暖の4月、新しい年度が始まりました。この3年間は新型コロナの感染拡大による対策年となり、すべてに人の活動が制限される何とも重苦しく暗い環境であったと思い返しております、ただまだまだ完全にコロナ環境が完全終息したわけではないのですが、春の陽気と、まぶしいほどの桜の満開を見ていると、なぜか開放的な感じになってきたと思えてなりません。

入場制限・マスク・検温・消毒等々毎日当たり前のように付き合ってきた日々、そうそう3密とか言う言葉もよく耳にしました。ところで、この3密何が3つだったか覚えておられますか、最近では緩和され、スポーツ観戦も以前は観客の人数制限や声出し応援禁止とかで拍手のみでお願いしますなんて言われておりましたが、先のWBCでは声出し応援や鳴り物等も許可され随分盛り上がり、日本が優勝したこともあり大変な感動の祭典でありました。このままコロナが終息し活発な経済活動と賑やかな催事の再開が望まれます。そうです3密「密閉」「密集」「密接」でしたね、早い緩和と解消をしたいと思います。

3月は年度替わりの異動や学校では卒業式と別れの季節です、先日川東学園の卒業式に出席させていただきました、厳粛な中にも晴れやかに旅立つ姿に感動をしました。今年28名の生徒が次の進路に付きます、9年間過ごした義務教育課程の仲間と離れて新たな環境で活動される皆様に、大きなエールを送らせていただきたいです。しかし、今更ですが驚いたことがありました。人数の少なさです。比べるのは今更ですが、私どもの頃は確か4クラスはあったかと思えます。この急激な少子化を感じ、これからの地域の在りように複雑な思いをする現実でした。

少子高齢化は今始まったことでは無いのですが、具体的な改善案が無いままに時がたたぬうちに、次世代を担っていただく方たちの負担を、少しでも減少させられるようにすることが、今の私たちの課題であると思えます。

3月は別れと旅立ち、4月は出会いと出発、ちなみに今年度入学される子どもたちは28名だそうです。この人数少しずつ増えますように願いたいものです。

旭町自治会長 吉川 肇



令和4年度 常任委員様 ありがとうございます。

美濃田副区長 川勝 明彦様 ・ 杉区長 川勝 厚男様
山階区長 人見 博也様 ・ 印地区長 入江 敏博様
コロナ禍の中の役職ご苦労様でした。これからも地域のため
ご協力いただきます様宜しくお願いいたします。

◎新たなシステムでスタート 「旭サポートカー」

令和5年度 旭サポートカー委員会を発足

少しでも皆さんの不安を解消したいと取組んでいます「旭サポートカー」事業。令和5年度よりサポートカー委員会を立ち上げます。運転手さんも2名増え、これからの運営について拡大委員会が行われました。



まずは安全な運行のため、国土交通省認定講習会を受けることを決定しました。利用者や運転手さんの不安を少しでもなくし、より利用しやすくするための共通理解が図れました。できる人ができるボランティアで助け合う事業として根付いていくことを目指しています。
利用者 運転手の登録は 旭町自治会までご連絡ください。

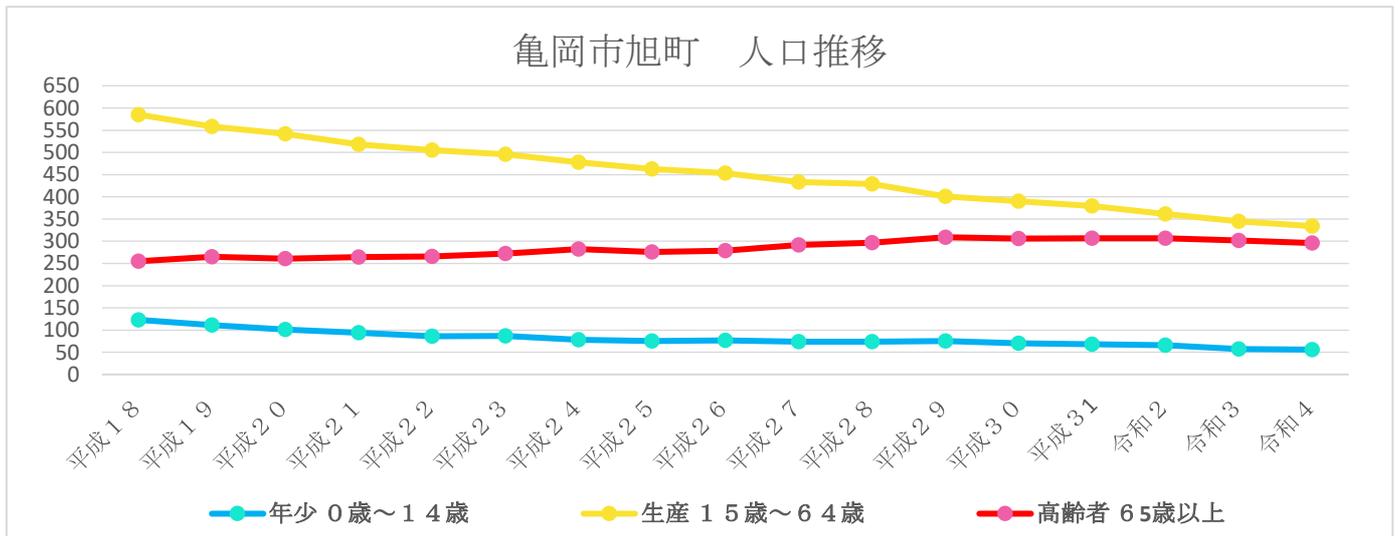
4月の行事予定

- | | | | |
|-----------|------------------|--------|--------|
| 4月 9日 (日) | 「亀岡市消防団 旭分団入退団式」 | 旭コミセン | 午前7時より |
| | 京都府議会議員一般選挙 | | |
| 10日 (月) | 亀岡川東学園後期課程開始式 | (新7年生) | |
| 11日 (火) | 亀岡川東学園入学式 | | |
| 24日 (月) | 旭サポートカー 運転手 講習会 | 終日 | 旭コミセン |

高齢化が進む旭町 活気のある旭町に向けて

今の旭町の人口推移を調べてみました。令和5年3月現在人口は675人、65歳以上が285人、65歳以下が395人となっていた。（高齢化率42.2%）

この人口比率を平成18年から見てみました。下のグラフのように年々高齢化率が増えていますが、高齢者数が増えたわけではありません、総人口が減ったから（平成18年から288人減少）高齢化率が増えているのです、特に生産人口（15歳～64歳）年少人口（0歳～14歳）の減少が気になります。



高齢化率が高くなると、様々な社会不安が増えてきます。でも私たちは今後もこの旭町で住み続けていきたいと思っています。だからといって子供たちに、ここに住み続けることを強要はしたくありません。グラフのように支えてくれる若者は確実に減少していきます。

何もしないでいたら元気のない年寄りだけの町になってしまう。行政が何とかしてくれる。そんなことはあり得ません。

ではどうすれば支え手が少ない中、不安なく元気に過ごせるのでしょうか。

まずは高齢者が不安なく暮らせる町とは、「おばあちゃん、おじいちゃんがいつも笑っている 何がたのしいのかなあ？」と若者が思い、若者もここに住み続けてもいいかな、と思える環境づくりが大切ではないかと思えます。

「旭サポートカー」や「歌声広場あさひサポートカー」事業もその一つです。不安なく買い物や病院に行け JRにも乗れ、「歌声広場あさひ」にも参加できる。このことが高齢者の不安を少しでもなくし、笑顔で住み続けられる条件の一つになるのではないのでしょうか。多くの人とコミュニケー

ションがとれ、楽しみが増える。こういったことがこれからの旭町の活性化につながる一つなのだと思います。そのためには、今できる人ができるボランティアでお互いを支えあう、助け合うシステムづくりが必要ではないのでしょうか。生産人口が増え担い手が多くいるなら不安なく生活できるのですが、残念ながら旭町では期待できません。新規の移住者を受け入れる工夫とともに、今いる、私たちが支えあうことが必要ではないのでしょうか。

